

人生の最終段階における医療・ケアに関する指針

人生の最終段階の判断と方針の選択

人生の最終段階という言葉にはっきりした定義はありません。一般的には、多職種の医療・ケアチームが、患者さま本人の病状や治療の状況から、最善の医療を尽くしても回復が見込めず、数日、数週間、数か月、場合によっては数年をかけて死を迎えることが避けられない状況と判断された期間を指します。

人生の最終段階かどうかの判断は、患者さまの状態等を踏まえて、医学的妥当性と適切性をもとに医師・看護師等の多職種からなる医療・ケアチームが行います。患者さまや家族さまへは看護師等の同席のもとに慎重に伝えられる必要があります。人生の最終段階における（医療の開始、不開始、および中止等の）医療の在り方は患者さまや家族さまの人生観、宗教等の社会的背景によって大きく異なりますので、一人一人の患者さまの背景を踏まえて進めていくことになります。患者さまの背景を的確に捉え、適切な治療とケアを行うには、医療・ケアチームの力が必要となります。患者さまや家族さまが判断に悩むような時は、患者さま・家族さまの意向を大切にしながら、医療・ケアチームで話し合い、慎重に判断していきます。

厚生労働省のガイドラインでは、人生の最終段階における医療・ケアの在り方として、『医師等の医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされ、それに基づいて医療・ケアを受ける本人が多専門職種の医療・介護従事者から構成される医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人による意思決定を基本としたうえで、人生の最終段階における医療・ケアを進めることが最も重要な原則である』とされています。患者さまあるいは家族さまの意思は、状況により変化することを念頭に置き、説明と意思の確認は、繰り返し行うことが望されます。あくまでも、人生の最終段階における医療・ケアの目的は、延命だけでなく、患者さまの尊厳を尊重し、QOLを維持することにあります。高の原中央病院では、この原則を守ることを基本指針とし、患者さま・家族さまの意向をふまえて多職種でカンファレンスを行い、人生の最終段階における意思決定を支援します。

2025年11月19日